

多くの先行研究と同様に高齢者生活支援の参加を利己的活動として捉え、活動を一種の消費として扱うアプローチと人的資本蓄積のための投資として扱うアプローチ、既に蓄積された人的資本の活用として扱うアプローチから分析する。その際、高齢者生活支援に特化した要素として、親族に対する介護経験を追加的に導入する。親族に対する介護の経験がない人（以下では経験前の人と呼ぶ）にとって、高齢者生活支援への参加は将来発生しうる親族への介護に向けた一種の準備や訓練と捉えることが出来る。また、親族への介護を経験した人（以下では、経験した人のうち現時点で介護を行っていない人を経験後の人と呼ぶ）にとって、高齢者生活支援への参加は既に獲得した経験の活用と捉えることが出来る。なお、現在親族への介護を行っている人（以下では経験中の人と呼ぶ）は、経験を獲得している点では経験後の人と同様だが、現在も介護負担を負っている点では経験後の人と異なる。このため、経験中の人には経験を活かすという意味では参加確率が高い可能性があるが、介護負担の影響で参加確率が低い可能性もある。なお、親族に対する介護の経験は広い意味で人的資本と捉えうるが、参加者が高齢者の場合には将来の賃金率が上昇する効果は期待できない³。そのため、理論的な枠組みとしては、吉田（2004）のモデルにおけるボランティア活動に対する効用の重み付け α に影響する要素として捉える。

3. 2 利用したデータと推計方法

本稿では、厚生労働省が実施している「中高年者縦断調査」の個票データを利用する。「中高年者縦断調査」は、2005年11月に、同年10月末に50～59歳だった者を対象に調査を開始し、以後、毎年同月に調査が実施されている。2005年から2010年まで毎回欠かさず回答があったサンプルは25,157だが、本稿では「高齢者による」社会貢献活動の決定要因を分析するため、このうち2008年の調査時点で満61歳以上だった4,937サンプル（2008～2010年の累計で14,811サンプル）を分

³ 本稿の分析対象は中高年者だが、比較的若年の場合には、将来、就労しながら介護負担を負った場合に、高齢者生活支援の経験が活きて介護の負担が軽くなり、介護休業や介護離職の可能性を減らさうという点で、将来の賃金率を引き下げないという一種の人的資本投資の効果がある可能性がある。

析対象とする。年齢を61歳以上にしているのは、調査票が調査日までの過去1年間の状況を質問しているためである。対象が2008年以降になっているのは、分析に必要な収入額の内訳（公的年金か否か）が2008年から調査されているためである。分析においては、男女でデータセットを分けて別個に推計している。これは、この調査の初回は世帯単位で無作為抽出が行われ、その世帯に該当する年齢の人が居れば回答を得るという方法でデータを収集しているためである。つまり、男女を1つのデータセットに統合して分析すると、同じ世帯の夫婦が、実際には家族構成や世帯の経済状況などが同じにもかかわらず、別個の（ランダムと仮定された）サンプルとして扱われてしまうためである。男女別のデータセットにしても同一世帯に対象年齢の同性の兄弟がいる場合などの問題は残るが、同居夫婦という典型的なパターンには対処できており問題は軽減しているとみている。

分析に用いた各変数は、前述した分析の枠組みに沿うように、また、見かけの影響であることを避けるために先行研究で有意だった個人属性などを盛り込むために、表5のように定義した⁴。活動内容として、高齢者生活支援だけでなく、子育て支援・文化や地域行事も採用しているのは、高齢者生活支援を被説明変数にした結果と、子育て支援等を説明した結果とを比較することで、得られた結果が高齢者生活支援に特徴的なものか否かを確認するためである⁵。また、活動形態として「組織を通じて」を設定したのは、(1)地域包括支援ケアシステムのボランティア活用の一環として生活支援サービスのコーディネーターの育成事業が既に始まっており、森ほか(2010)の指摘を踏まえれば、今後は何らかのコーディネーターを通じて参加することがボランティア活動の効率性に寄与すると考えられることと、(2)調査票は社会貢献活動に限らず社会参加活動全般を質問の対象にしているため、「ひとりで」や「家族と」の高齢者生活支援には、いわゆる社会貢献活動とは呼べない親族への生活支援が混入している可能性が否定できないこと、

⁴ 現時点では、吉田(2004)で有意だった「人口1人あたりの社会福祉費(県・市町村合計)」や馬(2014)で有意だった「都市規模」を盛り込めていない。早期に対処したい。

⁵ 先行研究との比較のために、何らかの社会貢献活動に参加しているかを被説明変数にすることも考えられるが、調査票では社会貢献活動ではなく社会参加活動として尋ねている(最後の活動が「その他の社会参加活動」になっている)ため、「何らかの社会貢献活動」という変数を作成できない。

のためである。賃金率は、要因分析の推計における内生性の問題や今回のサンプルでは実際に賃金を得ていないサンプルが多く含まれるため、馬 (2014) と同様に別途推計した値を用いた (付表1)。賃金率の推計では説明変数に勤続年数を用いることが多いが、今回のデータでは利用できない。そこで代替として、初回調査で質問された職歴のデータを利用している。年齢は、馬 (2014) と同様に、人的資本蓄積のための投資として扱うアプローチの観点で投入した。なお、通常は連続変数として投入されるが、今回はデータセットの年齢が61~64歳と狭い幅に限られるため各年齢のダミー変数として投入した。

【ここに表5を挿入】

推計方法は、linear probability モデルを採用した。被説明変数がダミー変数であるため logit モデルや probit モデルを利用する方法も考えられるが、logit モデルや probit モデルでは個体効果の除去について議論があることと、係数の解釈が単純であること、今回のデータセットでは logit モデルの推計で計算が収束しないモデルが多かったこと、のためである。

4 推計結果⁶

4. 1 活動形態を問わない場合

まず、高齢者への生活支援、および比較対象である子育て支援や地域行事に、何らかの形態で参加しているかを被説明変数として、参加要因を分析した (表7, 8)。本稿で独自に導入した親族への介護経験の影響を見ると、親族介護の経験中に高齢者支援に参加する確率が高い傾向が見られた。係数も、男性で0.2473 (linear probability モデルであるため、参加確率が24.73%上昇することを意味する)、女性で0.1657と大きな値になっている。また男性では、親族への介護の経験後も有意になっている。他の活動への影響を見ると、子育て支援には影響がなく、地域行事には親族介護の経験後に参加確率が高い傾向が男女で見られた。

一種の消費として扱うアプローチに関連する変数の係数を見ると (消費

⁶ 以下では、結果を保守的に見るために、有意水準5%で有意だったものについて述べる。

モデルの部分)、女性の高齢者支援で、配偶者(夫)の年金収入が多いと参加確率が高い傾向が見られた。配偶者(夫)の年金収入の平均値(7.861万円)では、1.3%ほど参加確率が高くなる結果となった。他の活動への影響を見ると、特に地域行事に対して男女とも推計賃金率が高いと参加確率が低い結果となった。また男性の地域行事では、配偶者(妻)の年金外収入が多いと参加確率が高い傾向が見られた。人的資本蓄積のための投資として扱うアプローチに関連する変数(年齢)の係数を見ると、いずれの活動に対しても有意な影響は見られなかった。既に蓄積された人的資本の活用として扱うアプローチに関連する変数の係数を見ると、学歴については、男性は高校卒や高専・短大卒の場合に、女性は大学(大学院)卒や高専・短大卒、高校卒の場合に、高齢者支援への参加確率が高い傾向が見られた。他の活動への影響を見ると、子育て支援には男性の大学(大学院)卒と女性の高専・短大卒で高い傾向が見られたが、地域行事への有意な影響は見られなかった。職歴については、男女ともに高齢者支援への有意な影響は見られなかった。他の活動への影響を見ると、子育て支援には男女とも「同じ分野に20年以上勤務」すなわち「同じ分野内で転職を経験して20年以上勤めている」場合に参加確率が低い傾向が見られた。

各種属性の影響を見ると、主観的健康については男性の高齢者支援以外の活動で、健康状態が悪いと参加確率が低いまたは健康状態が良いと参加確率が高い傾向が見られた。定年経験は、男性の地域行事で定年経験があると参加確率が高い傾向が見られた。16歳未満の子との同居は、女性(該当の子が1人の場合)の子育て支援でプラスの、男性(該当の子が複数の場合)の地域行事でマイナスの影響が見られた。また、調査年が2010年のダミー変数は、女性の高齢者支援以外で有意であった。

【ここに表7、表8を挿入】

4. 2 組織を通じた活動の場合

次に、町内会やNPOなどの組織を通じて参加しているかを被説明変数と

して、参加要因を分析した (表9, 10)。本稿で独自に導入した親族への介護経験の影響を見ると、男性が親族介護の経験後に高齢者支援に参加する確率が高い傾向が見られた⁷。また、女性が親族介護の経験後に地域行事に参加する確率が高い傾向も見られた。一種の消費として扱うアプローチに関連する変数の係数を見ると (消費モデルの部分)、高齢者支援への影響は男女とも見られなかった。他の活動への影響を見ると、本人の年金収入が多い男性が子育て支援に参加する確率が高い傾向と、配偶者の年金収入が多い女性が地域行事に参加する確率が高い傾向が見られた。人的資本蓄積のための投資として扱うアプローチに関連する変数 (年齢) の係数を見ると、いずれの活動に対しても有意な影響は見られなかった。既に蓄積された人的資本の活用として扱うアプローチに関連する変数の係数を見ると⁸、高齢者支援への影響は男女とも見られなかった。他の活動への影響を見ると、学歴については、男性は高校卒や高専・短大卒の場合に、女性は高専・短大卒や高校卒の場合に、子育て支援への参加確率が高い傾向が見られた。職歴については、男女ともに高齢者支援への有意な影響は見られなかった。他の活動への影響を見ると、子育て支援には男女とも「同じ分野に20年以上勤務」の場合、また女性で「自営業以外で20年以上勤務」、すなわち「異なる分野への転職を経験して20年以上勤めている」の場合に参加確率が低い傾向が見られた。

各種属性の影響を見ると、主観的健康については男性の地域行事で、健康状態が良いと参加確率が高い傾向が見られた。定年経験は、女性の高齢者支援で定年経験があると参加確率が低い傾向が見られた。16歳未満の子との同居は、男性 (該当の子が複数の場合) の高齢者支援と女性 (該当の子が1人の場合) の子育て支援でプラスの影響が見られた。また、調査年が2010年のダミー変数は、高齢者支援以外で有意であった。

【ここに表9、表10を挿入】

⁷ Hausman 検定の結果採用された固定効果モデルの結果。変量効果モデルでは有意でなかった。

⁸ 固定効果モデルが採用された場合、これらの変数は推計の過程で除外される。固定効果モデルが採用された場合について参考までに変量効果モデルの結果を見ると、いずれも有意な関係は見られなかった。

5 示唆と課題

本稿では、政府が進める地域包括ケアシステムで、高齢者が高齢者の生活支援の担い手となることが想定されている点に注目し、どのような高齢者が高齢者生活支援の担い手となるか（参加確率が高いか）を、厚生労働省の中高年齢者縦断調査の個票データを用いて分析した。分析の結果、活動形態を問わない場合には、他の要因をコントロールしても、親族介護の経験中に高齢者支援へ参加する確率が大幅に高い傾向が男女ともに見られた。この傾向は、子育て支援や地域行事では見られなかった。また、男性では親族介護の経験後と学歴が高校卒の場合に、女性では配偶者の年金収入が多い場合や学歴が大学(大学院)卒や高専・短大卒の場合、主観的な健康状態が中央値よりも良い場合に、高齢者支援へ参加する確率が高い傾向が見られた。これらの有意な要因のうち配偶者の年金収入と主観的健康は、女性の地域行事の参加要因でも有意になっていたが、他の要因は共通していなかった。他方、社会貢献活動であることを純化するために組織を通じた活動に限定した場合には、男性では親族介護の経験後である場合、女性では定年退職を経験した場合に、組織を通じた高齢者支援活動に参加する可能性が高い傾向が見られた。これらの有意な要因の他の活動への影響を見ると、親族介護の経験後が女性の地域行事には影響していたが、他に有意な影響は見られなかった。

これらの結果から、次のような示唆が得られた。まず、高齢者生活支援の参加者を募る際には、他の社会貢献活動とは異なる参加要因があることを踏まえる必要がある。これは、森ほか (2010) の示唆と共通する。次に、厳密な意味での社会貢献として、組織を通じて高齢者生活支援に参加する参加要因としては、親族への介護の経験後である男性であることが挙げられる。これは、吉田 (2004) が指摘するように、親族への介護を経験したことでボランティア活動（今回の分析では、特に高齢者の生活支援活動）に対する理解が深まった結果と考えられる。一方で、分析上の課題も残されている。まず、女性においては有意な参加要因が判明しなかった。事前に理論的に想定した要因（一種の消費として扱うアプローチなど）には有意な物がなく、個人属性として定年退職を経験している場合に参

加確率が低い傾向がみられたが、これは馬 (2014) の結果と相反しており、解釈が難しい。また、親族への介護の経験中である男女は、参加形態を問わない場合には有意な参加要因であったが、組織を通じた参加に限定すると有意ではなかった。しかし、前述したように総務省統計局「社会生活基本調査」における「ボランティア活動」と明示した設問では、家族の介護をしている場合に「高齢者を対象とした活動」などの行動者率が高い傾向があるため、今回の分析結果は注意深くみる必要がある。また、今回の分析はパネルデータを利用した点でメリットがあるが、馬 (2014) のようにボランティア活動と就労との組み合わせ方 (多項 logit モデルが想定される状況) については考慮できていない。今後の課題としたい。

参考文献

- Freeman, R. B. (1997) “Working for Nothing: The Supply of Volunteer Labor,” *Journal of Labor Economics*, Vol.15, No.1, pp.140-166.
- Menchik, P. L. and B. A. Weisbrod (1987) “Volunteer Labor Supply,” *Journal of Public Economics*, Vol.32, pp.159-183.
- 奥山尚子 (2009) 「地域ボランティア活動の決定要因—JGSS-2006 を用いた実証分析—」日本版総合的社会調査共同研究拠点 研究論文集[9] JGSS Research Series No.6 , pp.107-122.
- 小野晶子・馬欣欣 (2012) 「ボランティア活動参加と活動時間に関する先行研究」労働政策研究・研修機構『高齢者の社会貢献活動に関する研究一定量的分析と定性的分析から』JILPT 労働政策研究報告書 No.142, pp.8-13.
- 総務省統計局(2012)『平成23年社会生活基本調査』.
- 内閣府(2014)『平成25年度 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査結果 (全体版) 』
- 馬欣欣 (2012) 「高年齢者が社会活動に参加する決定要因—ボランティア供給を中心に—」労働政策研究・研修機構『高齢者の社会貢献活動に関する研究一定

- 量的分析と定性的分析から』JILPT 労働政策研究報告書 No.142, pp.39-72.
- 馬欣欣 (2014) 「高齢者におけるボランティア供給の決定要因に関する実証分析」
『日本労働研究雑誌』No.643, pp.70-80.
- 森保文・森賢三・犬塚裕雅・前田恭伸・浅野敏久・杉浦正吾 (2010) 「参加したいボランティア活動の種類と動機の関係」『ノンプロフィット・レビュー』Vol. 10 No.1, pp.1-11.
- 山内直人 (1997) 『ノンプロフィット・エコノミー』, 日本評論社.
- 吉田浩 (2004) 「ボランティア活動規定要因の実証分析～家計が供給する社会福祉～」TERG Discussion Papers 178.
- 労働政策研究・研修機構 (2012) 『高齢者の社会貢献活動に関する研究一定量的分析と定性的分析から』JILPT 労働政策研究報告書 No.142.

表1：中高年者のボランティア活動の全体的な状況
(平成23年社会生活基本調査)

	標本数	推定人口(千人)	行動者率(%)											
			総数	健康 や医 療 サービ スに関 係した 活動	高齢 者を対 象とし た活 動	障害 者を対 象とし た活 動	子供を 対象と した活 動	スポー ツ・文 化・芸 術・学 術に関 係した 活動	まちづ くりの ための 活動	安全 な生 活のた めの活 動	自然 や環 境を守 るため の活 動	災害 に関 係した 活動	国際 協力 に関 係した 活動	その他
全体														
50～54歳	6,011	3,767	30.3	3.6	3.4	1.7	7.8	4.6	13.9	5.6	5.7	5.0	1.4	2.5
55～59歳	6,885	4,051	28.3	3.0	4.4	1.6	4.6	3.9	14.3	6.0	5.9	3.9	1.2	2.8
60～64歳	8,999	5,124	27.1	2.0	5.8	1.7	4.3	3.7	14.0	6.1	5.7	3.4	1.0	2.3
65～69歳	6,234	3,659	28.9	1.8	7.6	2.1	5.1	3.7	14.7	5.8	6.1	3.2	1.1	2.8
70～74歳	5,619	3,218	28.0	1.7	7.8	1.9	4.5	3.3	14.5	6.9	5.8	2.3	1.0	2.5
75歳以上	9,584	5,140	17.9	0.9	4.5	0.8	2.2	2.1	9.9	3.4	3.3	1.1	0.6	1.4
男性														
50～54歳	6,011	3,767	29.0	3.7	2.1	1.1	6.8	6.2	13.9	6.4	5.9	4.4	1.0	2.2
55～59歳	6,885	4,051	26.9	3.0	1.8	1.1	4.2	4.9	14.7	7.2	6.0	3.6	0.9	2.4
60～64歳	8,999	5,124	27.0	1.5	3.1	0.9	3.7	4.4	15.7	7.9	6.4	3.0	0.7	2.2
65～69歳	6,234	3,659	29.4	1.3	4.7	1.4	4.9	4.6	16.6	8.1	6.5	3.0	1.1	2.5
70～74歳	5,619	3,218	31.4	1.4	6.6	1.7	5.2	4.2	17.5	10.2	7.1	2.0	1.0	2.9
75歳以上	9,584	5,140	22.0	0.9	4.8	0.8	3.1	3.3	12.9	5.3	4.6	1.0	0.9	1.8
女性														
50～54歳	6,655	3,790	31.6	3.5	4.7	2.2	8.8	3.1	13.8	4.9	5.5	5.6	1.8	2.8
55～59歳	7,460	4,144	29.7	3.1	6.9	2.1	5.0	2.9	13.9	4.7	5.9	4.3	1.4	3.3
60～64歳	9,421	5,355	27.2	2.4	8.3	2.5	4.8	3.0	12.4	4.3	5.1	3.9	1.3	2.5
65～69歳	6,781	4,029	28.4	2.2	10.2	2.7	5.3	2.9	12.9	3.7	5.6	3.4	1.1	3.1
70～74歳	6,577	3,734	25.0	1.9	8.8	2.0	4.0	2.5	12.0	4.0	4.7	2.5	1.0	2.0
75歳以上	13,913	7,825	15.3	0.9	4.3	0.8	1.6	1.4	8.0	2.1	2.4	1.2	0.5	1.2

(資料) 総務省統計局(2012)「平成23年社会生活基本調査」第60表。

表2：中高年者のボランティア活動の活動形態と就業状況
(平成23年社会生活基本調査)

	標本数	推定人口(千人)	行動者率(%)										
			ボランティア活動全体			高齢者を対象とした活動		子供を対象とした活動		スポーツ・文化・芸術・学術に 関係した活動		まちづくりのための活動	
			加入している	団体等に加入している	加入している	団体等に加入している	加入している	団体等に加入している	加入している	団体等に加入している	加入している	団体等に加入している	
男性													
全体			29.0	2.1	1.0	6.8	5.4	6.2	5.0	13.9	11.9		
50～54歳	6,011	3,767	29.0	2.1	1.0	6.8	5.4	6.2	5.0	13.9	11.9		
55～59歳	6,885	4,051	26.9	1.8	1.1	4.2	3.5	4.9	3.9	14.7	12.6		
60～64歳	8,999	5,124	27.0	3.1	2.0	3.7	3.0	4.4	3.5	15.7	13.3		
65～69歳	6,234	3,659	29.4	4.7	3.3	4.9	3.9	4.6	3.7	16.6	14.1		
70～74歳	5,619	3,218	31.4	6.6	4.8	5.2	4.2	4.2	3.3	17.5	14.2		
75歳以上	9,584	5,140	22.0	4.8	3.7	3.1	2.4	3.3	2.7	12.9	10.6		
無業者													
50～54歳	300	185	16.6	1.1	-	3.2	2.1	3.4	1.8	7.3	6.1		
55～59歳	522	338	12.0	0.7	0.4	2.2	1.9	2.8	2.4	6.0	4.7		
60～64歳	2,138	1,286	22.6	3.5	2.6	2.7	2.0	3.4	2.6	11.8	9.2		
65～69歳	2,863	1,695	28.6	4.9	3.7	4.8	3.9	4.3	3.5	16.4	14.0		
70～74歳	3,344	1,950	29.6	6.9	5.0	5.3	4.3	4.2	3.1	16.5	13.2		
75歳以上	7,272	4,005	19.7	4.7	3.7	2.7	2.2	3.0	2.6	11.6	9.5		
女性													
全体			31.6	4.7	2.4	8.8	6.7	3.1	2.4	13.8	12.2		
50～54歳	6,655	3,790	31.6	4.7	2.4	8.8	6.7	3.1	2.4	13.8	12.2		
55～59歳	7,460	4,144	29.7	6.9	3.9	5.0	3.7	2.9	2.4	13.9	11.8		
60～64歳	9,421	5,355	27.2	8.3	5.6	4.8	3.6	3.0	2.3	12.4	10.5		
65～69歳	6,781	4,029	28.4	10.2	7.3	5.3	4.3	2.9	2.3	12.9	10.8		
70～74歳	6,577	3,734	25.0	8.8	6.2	4.0	3.2	2.5	2.2	12.0	9.9		
75歳以上	13,913	7,825	15.3	4.3	3.0	1.6	1.3	1.4	1.0	8.0	6.6		
無業者													
50～54歳	1,517	941	32.6	4.6	2.3	9.9	7.3	3.7	2.7	13.2	11.9		
55～59歳	2,399	1,415	30.0	7.3	3.9	5.9	4.4	3.3	2.8	14.1	12.3		
60～64歳	4,603	2,708	26.9	9.0	6.0	4.6	3.2	2.8	2.2	12.3	10.3		
65～69歳	4,477	2,683	28.4	10.3	7.7	5.5	4.3	2.8	2.0	13.3	11.2		
70～74歳	4,985	2,909	24.6	8.6	6.2	4.2	3.3	2.5	2.1	11.8	9.8		
75歳以上	12,448	7,096	14.3	4.0	2.7	1.5	1.2	1.3	1.0	7.3	6.0		

(注1) 上記以外のボランティア活動も調査されているが、上表では、厚生労働省「中高年者縦断調査」の設問に近いものだけを取り上げた。

(注2) 調査票には、各活動の具体例が次のようにカッコ書きで記載されている。
 高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け 高齢者とのレクリエーション など）、子供を対象とした活動（子供会の世話 子育て支援ボランティア 学区行事の手伝い など）、スポーツ・文化・芸術・学術に
 関係した活動（スポーツを教えること 日本古来の文化を広めること 美術館ガイド 講演会・シンポジウム等の開催 など）
 まちづくりのための活動（道路や公園等の清掃 花いっぱい運動 まちおこし など）

(注3) 調査票には、団体の種別が次のように記載されている。種別ごとの結果は、上表では省略した。ボランティアを目的とするクラブ・サークル・市民団体など、NPO(特定非営利活動法人)、地域社会とのつながりの強い町内会などの組織、その他の団体

(注4) 有業者と無業者の内訳（"主に仕事"などの種別別）の結果は、上表では省略した。

(資料) 総務省統計局(2012)「平成23年社会生活基本調査」第60表、第61表。

表3： 中高年者のボランティア活動と介護実施の状況
(平成23年社会生活基本調査)

	全体					無業者									
	標本数	推定人口(千人)	行動者率(%)			標本数	推定人口(千人)	行動者率(%)							
			ボランティア活動全体	高齢者を対象とした活動	子供を対象とした活動	スポーツ・文化・芸術に 関係した活動	まちづくりの活動				ボランティア活動全体	高齢者を対象とした活動	子供を対象とした活動	スポーツ・文化・芸術に 関係した活動	まちづくりの活動
男性															
介護をしていない															
50～59歳	11,702	7,120	27.5	1.5	5.4	5.4	14.2	712	448	13.7	0.6	2.5	3.1	6.3	
60～69歳	13,772	8,018	27.3	3.3	4.1	4.5	15.5	4,518	2,721	25.4	4.0	3.8	3.8	14.0	
70歳以上	14,326	7,856	25.4	5.4	3.8	3.6	14.5	9,992	5,577	22.7	5.3	3.5	3.2	12.9	
介護をしている															
50～59歳	1,194	698	31.8	6.2	5.8	6.5	15.9	110	74	12.8	2.4	2.8	2.7	7.3	
60～69歳	1,461	764	35.1	8.0	5.3	4.4	21.7	483	259	31.9	7.7	5.0	5.1	19.0	
70歳以上	877	502	29.1	7.3	4.9	5.1	17.5	624	378	27.1	6.6	4.4	4.8	17.4	
女性															
介護をしていない															
50～59歳	11,962	6,710	28.9	4.9	6.6	2.8	13.5	3,195	1,914	28.9	5.4	7.2	2.9	13.2	
60～69歳	14,316	8,363	27.3	8.8	4.9	2.9	12.5	8,005	4,801	27.4	9.5	5.0	2.9	12.9	
70歳以上	19,211	10,859	18.3	5.7	2.3	1.8	9.3	16,356	9,409	17.1	5.2	2.2	1.7	8.6	
介護をしている															
50～59歳	2,153	1,224	40.0	10.9	8.3	4.4	16.1	721	441	40.4	9.7	8.7	5.8	16.0	
60～69歳	1,886	1,020	31.7	11.7	5.5	3.6	14.1	1,075	589	29.4	10.3	5.2	2.2	12.2	
70歳以上	1,279	700	20.8	7.7	3.3	1.5	9.8	1,077	596	19.5	7.0	3.2	1.2	9.4	

(注1) 上記以外のボランティア活動も調査されているが、上表では、厚生労働省「中高年者縦断調査」の設問に近いものだけを取り上げた。

(資料) 総務省統計局(2012)「平成23年社会生活基本調査」第66表。

表4：高齢者の参加したい社会参加活動と参加している社会参加活動（ともに複数回答）

（平成25年度 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査）

	総数	健康・スポーツ	趣味	地域行事	生活環境改善	生産・就業	教育関連・文化啓発活動	安全管理	高齢者の支援	子育て支援	その他	活動・参加した(計)	活動・参加したくない(計)
【総数】	1999	33.7	21.4	19.0	9.0	8.4	6.8	6.7	6.7	4.9	3.6	61.0	39.0
Q5【参加したい活動】													
健康・スポーツ	893	64.7	26.7	22.7	11.2	10.9	8.8	9.4	9.1	6.9	3.4	81.4	18.6
趣味	525	41.3	62.7	18.7	10.7	9.9	9.9	9.0	10.7	6.7	3.8	82.5	17.5
地域行事	382	48.5	29.1	62.2	18.8	13.9	14.1	14.7	13.6	9.7	3.7	86.9	13.1
生活環境改善	254	46.2	28.9	37.8	38.6	18.7	17.1	19.9	16.7	10.0	4.0	82.1	17.9
生産・就業	364	40.9	23.9	26.6	19.9	33.2	11.3	11.0	14.3	8.0	1.3	77.4	22.6
教育関連・文化啓発活動	171	46.2	39.8	32.7	20.5	14.0	45.6	13.5	19.9	9.9	2.3	85.4	14.6
安全管理	162	48.1	25.9	38.9	22.2	17.3	16.7	43.8	21.6	9.3	3.7	86.4	13.6
高齢者の支援	220	45.0	30.5	29.5	19.2	12.7	14.1	16.4	35.5	13.2	5.5	84.1	15.9
子育て支援	160	45.6	30.0	29.4	15.0	15.0	12.5	10.6	18.8	34.4	4.4	80.0	20.0
その他	40	35.0	32.5	15.0	5.0	5.0	2.5	2.5	7.5	2.5	47.5	80.0	20.0
活動・参加したいものはない	549	4.7	3.1	5.5	2.2	1.6	1.5	0.5	1.1	1.1	2.7	15.5	84.5
活動・参加したい(計)	1450	44.7	28.3	24.1	11.5	11.0	8.8	9.0	8.8	6.3	3.9	78.3	21.7

（資料）内閣府（2014）「平成25年度 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査結果（全体版）」, p.33.

表5：分析に利用した変数

活動参加	活動していれば1をとるダミー変数。下記の3つの活動内容と2つの活動形態の組合わせで計6種類の変数を定義。
活動内容	「高齢者支援」、「子育て支援・文化」(表では子育て支援と略記)、「地域行事」。詳細な定義は調査票参照。
活動形態	「不問」は調査票の「活動の有無」への回答。「組織を通じて」は、調査票の「活動の方法」の「町内会・自治会」または「NPO・公益法人等の団体」に当てはまる場合に該当。
介護経験	
親族介護(週7h超)経験	まず、親族への介護の時間が週7時間を越えると回答した場合に1をとるダミー変数を作成。週7時間は、親族への介護時間が0時間超のサンプルにおける介護時間の中央値。次に、そのダミー変数が、調査初年(2005年)から当該調査年までゼロであれば「経験前」、当該調査年に1であれば「経験中」、それ以外(調査初年(2005年)から当該調査前年までに少なくとも1度は1があり、かつ当該調査年ではゼロの場合)は「経験後」とした。ダミー変数化して利用。
消費モデル	
本人_推計賃金率	同調査のデータから推計した賃金率(時給。付表1参照)。推計投入時の単位は千円/時。
配偶_年金収入	配偶者の各年10月の公的年金収入額(2か月分)の半額(1か月分)。単位は万円。配偶者がいない場合はゼロ。
配偶_年金外収入	配偶者の各年10月の公的年金以外の収入額(2か月分)の半額(1か月分)。単位は万円。配偶者がいない場合はゼロ。
本人_年金収入	本人の各年10月の公的年金収入額(2か月分)の半額(1か月分)。回答の単位は万円、推計投入時の単位は万円。
世帯_金融純資産	「世帯の預貯金額(株・債券を含む)」から「世帯の借入額」を控除した金額。単位は百万円。
人的資本	
年齢	本人の満年齢(各年11月1日現在)。
職歴	第1回(2006年調査)における「これまでの働き方」。
個人属性	
主観的健康(中央値比)	調査票の「現在の健康状態」(「大変良い」から「大変悪いまで」の6段階の選択式)に対する回答が、中央値(どちらかと言えば悪い)より良いか悪いかの名義変数。ダミー変数化して利用。
定年退職経験	調査年までに定年退職した経験があれば1をとり、1以外は、就業していない場合も含めてゼロとなるダミー変数。
家族属性	
16歳未満の同居の子の数	16歳未満の同居の子の数が、ゼロか1か複数(2以上)かをとる名義変数。ダミー変数化して利用。
16歳以上無収入同居者の数	16歳以上の無収入の同居者(続柄不問)の数が、ゼロか1か複数(2以上)かをとる名義変数。ダミー変数化して利用。
地域属性	
有効求人倍率	各年の都道府県別有効求人倍率。
調査属性	
調査年=2010	調査年が2010の場合に1をとるダミー変数。2010年から、回収方法が留置回収から郵送に変更され、社会活動に関する調査票の様式も変わったため設定した。

表6：調査票（抜粋）

2009年以前

問32 あなたはこの1年間(平成20年11月～平成21年10月)に、次の①～⑥の活動をしましたか。活動した場合には、その活動の状況についてお答えください。
 なお、1つの活動のうち複数のことを行った場合は、最も力をいれて行ったことについて記入してください。
 【例：①のうち、囲碁と旅行をしたが、最も力をいれていたことが囲碁の場合は、囲碁の活動の状況を記入します。】

活動の有無	1か月の平均活動回数	活動の方法					地域 主に地元で活動	活動 地域 地元を越えた活動	今活動 継続したい		今後の志 やめたい	
		ひとりで (同僚等を除く)	家族や友人と (元同僚を含む)	勤め先の同僚と (元同僚を含む)	町内会・自治会	NPO・公益 法人等の団体			満足 やや満足	普通	やや不満	不満
①趣味・娯楽 (囲碁、盆栽、旅行など)	1 あり 2 なし	1	2	3	4	5	1	2	1	2	3	
②スポーツ・健康 (ウォーキング・球技など)	1 あり 2 なし	1	2	3	4	5	1	2	1	2	3	
③地域行事 (町内会の催しなど)	1 あり 2 なし	1	2	3	4	5	1	2	1	2	3	
④子育て支援・教育・文化 (子供会の役員など)	1 あり 2 なし	1	2	3	4	5	1	2	1	2	3	
⑤高齢者支援 (家事支援・移送など)	1 あり 2 なし	1	2	3	4	5	1	2	1	2	3	
⑥その他の社会参加活動	1 あり 2 なし	1	2	3	4	5	1	2	1	2	3	

2010年以降

問24 あなたはこの1年間(平成21年11月～平成22年10月)に、次のような活動をしましたか。活動した場合には、その活動の状況についてお答えください。

活動の有無	活動が「あり」の場合、 記入してください。	活動の方法 (あてはまる番号すべてに○)					満足度 (あてはまる番号1つに○)				
		ひとりで (同僚等を除く)	家族や友人と (元同僚を含む)	勤め先の同僚と (元同僚を含む)	町内会・自治会	NPO・公益 法人等の団体	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
趣味・娯楽 (囲碁、料理、旅行など)	1 あり 2 なし	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
スポーツ・健康 (ウォーキング・球技など)	1 あり 2 なし	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
地域行事 (町内会の催しなど)	1 あり 2 なし	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
子育て支援・教育・文化 (子供会の役員など)	1 あり 2 なし	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
高齢者支援 (家事支援・移送など)	1 あり 2 なし	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
その他の社会参加活動	1 あり 2 なし	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

表7：推計1の記述統計量・介護経験の影響（参加形態を問わない場合）

	男性				女性			
	活動：高齢者		子育て		活動：高齢者		子育て	
	Mean	S.D.	Min	Max	Mean	S.D.	Min	Max
	N: 3885		3887		N: 2701		2701	
			3899				2704	
活動参加								
高齢者支援(参加形態不問)	0.056	0.230	0	1	0.077	0.266	0	1
子育て支援(参加形態不問)	0.043	0.204	0	1	0.048	0.213	0	1
地域行事(参加形態不問)	0.373	0.484	0	1	0.389	0.488	0	1
介護経験								
親族介護(週7h超)=経験前	(base)				(base)			
親族介護(週7h超)=経験中	0.035	0.184	0	1	0.060	0.237	0	1
親族介護(週7h超)=経験後	0.052	0.222	0	1	0.080	0.272	0	1
本人_推計賃金率	1.321	0.516	0.389	5.693	0.857	0.251	0.264	2.473
配偶_年金収入	1.115	3.034	0	33	7.861	8.429	0	34
配偶_年金外収入	7.195	17.018	0	250	14.251	22.985	0	260
本人_年金収入	6.991	7.048	0	25	4.469	4.722	0	25
世帯_金融純資産	8.389	15.540	-60	72	9.211	15.795	-63.5	70.32
年齢=61歳	(base)				(base)			
年齢=62歳	0.345	0.475	0	1	0.342	0.475	0	1
年齢=63歳	0.364	0.481	0	1	0.314	0.464	0	1
年齢=64歳	0.131	0.338	0	1	0.109	0.312	0	1
学歴=中学	(base)				(base)			
学歴=高校	0.472	0.499	0	1	0.538	0.499	0	1
学歴=高専短大	0.057	0.233	0	1	0.175	0.380	0	1
学歴=大学(院)	0.256	0.436	0	1	0.053	0.225	0	1
学歴=その他	0.012	0.107	0	1	0.007	0.081	0	1
職歴=同じ会社20年以上	(base)				(base)			
職歴=同じ分野20年以上	0.223	0.416	0	1	0.174	0.380	0	1
職歴=自営以外20年以上	0.079	0.269	0	1	0.186	0.389	0	1
職歴=自営業で20年以上	0.172	0.378	0	1	0.186	0.389	0	1
職歴=中断以後は不就業	0.002	0.045	0	1	0.024	0.153	0	1
職歴=その他の就業経歴	0.032	0.176	0	1	0.214	0.410	0	1
職歴=収入伴う就労歴無	0.001	0.023	0	1	0.008	0.088	0	1
主観的健康=中央値より悪	0.178	0.382	0	1	0.170	0.376	0	1
主観的健康=中央値と同じ	(base)				(base)			
主観的健康=中央値より良	0.386	0.487	0	1	0.392	0.488	0	1
定年退職=経験なし	(base)				(base)			
定年退職=経験済	0.246	0.431	0	1	0.157	0.364	0	1
16歳未満の同居の子=0名	(base)				(base)			
16歳未満の同居の子=1名	0.007	0.082	0	1	0.001	0.027	0	1
16歳未満の同居の子=複数	0.002	0.045	0	1	0.000	0.000	0	0
16歳以上無収入同居者=0名	(base)				(base)			
16歳以上無収入同居者=1名	0.118	0.323	0	1	0.088	0.284	0	1
16歳以上無収入同居者=複数	0.010	0.097	0	1	0.006	0.074	0	1
有効求人倍率	0.623	0.263	0.288	1.686	0.657	0.281	0.288	1.686
調査年=2010	0.345	0.475	0	1	0.318	0.466	0	1

(注) 被説明変数によって分析対象サンプル数に若干の違いがあるが、説明変数の記述統計量はほとんど同じであったため、被説明変数が「高齢者支援」の場合の値を記載した。

表 8 : 推計 1 の結果・介護経験の影響 (活動形態を問わない場合)

	従属変数 高齢者支援		高齢者支援		子育て支援		地域行事	
	サンプル	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
採用モデル	変量効果	変量効果	変量効果	変量効果	変量効果	変量効果	変量効果	
	b (se)	b (se)	b (se)	b (se)	b (se)	b (se)	b (se)	
介護経験								
親族介護(週7h超)=経験前	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	
親族介護(週7h超)=経験中	0.2473 *** (.0203)	0.1657 *** (.0221)	0.0217 (.0184)	-0.0034 (.0169)	0.0676 * (.0405)	0.0568 (.0389)		
親族介護(週7h超)=経験後	0.0552 *** (.0184)	0.0315 (.0214)	0.0034 (.0169)	0.0141 (.0172)	0.1089 *** (.0401)	0.0890 ** (.0393)		
消費モデル								
本人_推計賃金率	0.0062 (.0101)	0.0019 (.0267)	-0.0048 (.0093)	-0.0100 (.0211)	-0.0707 *** (.0217)	-0.0964 ** (.0489)		
配偶_年金収入	0.0010 (.0013)	0.0016 ** (.0007)	0.0000 (.0011)	0.0010 * (.0006)	0.0015 (.0026)	0.0030 ** (.0013)		
配偶_年金外収入	-0.0000 (.0002)	0.0004 (.0002)	-0.0001 (.0002)	0.0002 (.0002)	0.0015 *** (.0004)	0.0008 * (.0004)		
本人_年金収入	0.0004 (.0006)	0.0007 (.0014)	0.0002 (.0006)	0.0020 * (.0011)	0.0004 (.0013)	0.0022 (.0025)		
世帯_金融純資産	0.0005 * (.0003)	-0.0001 (.0004)	0.0000 (.0003)	-0.0002 (.0003)	0.0006 (.0006)	0.0008 (.0007)		
人的資本投資								
年齢=61歳	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
年齢=62歳	0.0082 (.0112)	0.0082 (.0136)	-0.0004 (.0100)	0.0050 (.0101)	-0.0263 (.0211)	0.0211 (.0236)		
年齢=63歳	0.0066 (.0155)	0.0206 (.0216)	0.0088 (.0140)	-0.0078 (.0167)	-0.0340 (.0317)	0.0124 (.0385)		
年齢=64歳	0.0103 (.0221)	0.0103 (.0315)	0.0041 (.0202)	-0.0079 (.0249)	-0.0452 (.0469)	0.0193 (.0570)		
人的資本活用								
学歴=中学	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
学歴=高校	0.0231 ** (.0115)	0.0284 * (.0160)	0.0138 (.0106)	0.0226 * (.0133)	0.0322 (.0263)	0.0137 (.0299)		
学歴=高専短大	0.0359 * (.0202)	0.0440 ** (.0206)	0.0124 (.0186)	0.0601 *** (.0172)	0.0497 (.0461)	0.0310 (.0385)		
学歴=大学(院)	0.0115 (.0150)	0.0655 ** (.0328)	0.0293 ** (.0139)	0.0166 (.0275)	0.0322 (.0341)	0.0104 (.0620)		
学歴=その他	0.0348 (.0401)	0.0225 (.0739)	-0.0087 (.0370)	-0.0098 (.0609)	0.0872 (.0921)	0.0840 (.1374)		

職歴=同じ会社20年以上	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
職歴=同じ分野20年以上	0.0002 (.0113)	0.0089 (.0205)	-0.0266 ** (.0104)	-0.0397 ** (.0172)	-0.0165 (.0258)	-0.0646 * (.0386)
職歴=自営以外20年以上	-0.0074 (.0168)	0.0092 (.0210)	-0.0101 (.0155)	-0.0316 * (.0176)	-0.0533 (.0386)	-0.0164 (.0395)
職歴=自営業で20年以上	0.0027 (.0133)	-0.0046 (.0217)	0.0135 (.0123)	-0.0044 (.0180)	0.0590 * (.0301)	0.0555 (.0406)
職歴=中断以後は不就業	-0.0890 (.0993)	0.0059 (.0438)	-0.0500 (.0926)	-0.0349 (.0365)	-0.3133 (.2360)	-0.0368 (.0820)
職歴=その他の就業経歴	-0.0238 (.0256)	-0.0032 (.0208)	-0.0161 (.0237)	-0.0239 (.0173)	-0.0854 (.0593)	-0.0139 (.0390)
職歴=収入伴う就労歴無	-0.0393 (.1838)	-0.0511 (.0726)	-0.0513 (.1700)	0.0002 (.0609)	0.0742 (.4227)	-0.0347 (.1367)
個人属性						
主観的健康=中央値より悪	-0.0080 (.0106)	0.0192 (.0152)	-0.0154 (.0096)	-0.0234 ** (.0116)	-0.0462 ** (.0209)	-0.0282 (.0269)
主観的健康=中央値と同じ	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
主観的健康=中央値より良	0.0113 (.0082)	0.0235 ** (.0114)	0.0122 * (.0074)	0.0048 (.0085)	0.0154 (.0160)	0.0436 ** (.0199)
定年退職=経験なし	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
定年退職=経験済	-0.0138 (.0106)	-0.0276 (.0185)	-0.0047 (.0098)	0.0052 (.0153)	0.0551 ** (.0234)	0.0306 (.0346)
家族属性						
16歳未満の同居の子=0名	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
16歳未満の同居の子=1名	-0.0453 (.0493)	-0.0450 (.1973)	0.0582 (.0450)	0.4693 *** (.1474)	0.0180 (.1036)	0.3774 (.3448)
16歳未満の同居の子=複数	0.0475 (.0865)	0.0000	-0.0358 (.0789)	0.0000	-0.4061 ** (.1824)	0.0000
16歳以上無収入同居者=0名	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
16歳以上無収入同居者=1名	-0.0159 (.0119)	0.0105 (.0188)	-0.0040 (.0108)	-0.0003 (.0144)	0.0213 (.0239)	-0.0137 (.0334)
16歳以上無収入同居者=複数	-0.0125 (.0392)	0.0635 (.0657)	-0.0131 (.0354)	0.0435 (.0483)	0.1015 (.0759)	0.1290 (.1134)
地域属性						
有効求人倍率	-0.0208 (.0171)	0.0333 (.0225)	-0.0108 (.0154)	0.0044 (.0172)	-0.0604 * (.0339)	-0.0378 (.0398)
調査属性						
調査年=2010	0.0310 *** (.0119)	0.0261 (.0184)	0.0314 *** (.0107)	0.0303 ** (.0137)	0.1029 *** (.0233)	0.1238 *** (.0319)
定数項	0.0119 (.0248)	-0.0353 (.0370)	0.0311 (.0226)	0.0232 (.0295)	0.4297 *** (.0523)	0.3587 *** (.0676)
sigma_u	0.1255	0.1634	0.1234	0.1538	0.3545	0.3333
sigma_e	0.1873	0.2098	0.1642	0.1440	0.3178	0.3444
rho	0.3097	0.3774	0.3609	0.5331	0.5544	0.4836
N	3885	2701	3887	2701	3899	2704

(注) プーリングモデルか変量効果モデルか固定効果モデルかの選択は、Hausman検定に従った。

表9：推計2の記述統計量・介護経験の影響（組織を通じた活動の場合）

	男性				女性			
	活動: 高齢者		子育て 地域		活動: 高齢者		子育て 地域	
	N:	3885	3887	3899	N:	2701	2701	2704
	Mean	S.D.	Min	Max	Mean	S.D.	Min	Max
活動参加								
高齢者支援(参加形態不問)	0.014	0.117	0	1	0.021	0.145	0	1
子育て支援(参加形態不問)	0.029	0.167	0	1	0.026	0.160	0	1
地域行事(参加形態不問)	0.317	0.465	0	1	0.315	0.464	0	1
介護経験								
親族介護(週7h超)=経験前	(base)				(base)			
親族介護(週7h超)=経験中	0.035	0.184	0	1	0.060	0.237	0	1
親族介護(週7h超)=経験後	0.052	0.222	0	1	0.080	0.272	0	1
本人_推計賃金率	1.321	0.516	0.389	5.693	0.857	0.251	0.264	2.473
配偶_年金収入	1.115	3.034	0	33	7.861	8.429	0	34
配偶_年金外収入	7.195	17.018	0	250	14.251	22.985	0	260
本人_年金収入	6.991	7.048	0	25	4.469	4.722	0	25
世帯_金融純資産	8.389	15.540	-60	72	9.211	15.795	-63.5	70.32
年齢=61歳	(base)				(base)			
年齢=62歳	0.345	0.475	0	1	0.342	0.475	0	1
年齢=63歳	0.364	0.481	0	1	0.314	0.464	0	1
年齢=64歳	0.131	0.338	0	1	0.109	0.312	0	1
学歴=中学	(base)				(base)			
学歴=高校	0.472	0.499	0	1	0.538	0.499	0	1
学歴=高専短大	0.057	0.233	0	1	0.175	0.380	0	1
学歴=大学(院)	0.256	0.436	0	1	0.053	0.225	0	1
学歴=その他	0.012	0.107	0	1	0.007	0.081	0	1
職歴=同じ会社20年以上	(base)				(base)			
職歴=同じ分野20年以上	0.223	0.416	0	1	0.174	0.380	0	1
職歴=自営以外20年以上	0.079	0.269	0	1	0.186	0.389	0	1
職歴=自営業で20年以上	0.172	0.378	0	1	0.186	0.389	0	1
職歴=中断以後は不就業	0.002	0.045	0	1	0.024	0.153	0	1
職歴=その他の就業経歴	0.032	0.176	0	1	0.214	0.410	0	1
職歴=収入伴う就労歴無	0.001	0.023	0	1	0.008	0.088	0	1
主観的健康=中央値より悪	0.178	0.382	0	1	0.170	0.376	0	1
主観的健康=中央値と同じ	(base)				(base)			
主観的健康=中央値より良	0.386	0.487	0	1	0.392	0.488	0	1
定年退職=経験なし	(base)				(base)			
定年退職=経験済	0.246	0.431	0	1	0.157	0.364	0	1
16歳未満の同居の子=0名	(base)				(base)			
16歳未満の同居の子=1名	0.007	0.082	0	1	0.001	0.027	0	1
16歳未満の同居の子=複数	0.002	0.045	0	1	0.000	0.000	0	0
16歳以上無収入同居者=0名	(base)				(base)			
16歳以上無収入同居者=1名	0.118	0.323	0	1	0.088	0.284	0	1
16歳以上無収入同居者=複数	0.010	0.097	0	1	0.006	0.074	0	1
有効求人倍率					0.657	0.281	0.288	1.686
調査年=2010	0.345	0.475	0	1	0.318	0.466	0	1

(注) 被説明変数によって分析対象サンプル数に若干の違いがあるが、説明変数の記述統計量はほとんど同じであったため、被説明変数が「高齢者支援」の場合の値を記載した。

表10：推計2の結果・介護経験の影響（組織を通じた活動の場合）

							(参考)		
	従属変数	高齢者支援	高齢者支援	子育て支援	子育て支援	地域行事	地域行事	高齢者支援	地域行事
	サンプル	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	男性
採用モデル	固定効果	変量効果	変量効果	変量効果	固定効果	変量効果	変量効果	変量効果	
	b (se)	b (se)	b (se)	b (se)	b (se)	b (se)	b (se)	b (se)	
介護経験									
親族介護(週7h超)=経験前	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
親族介護(週7h超)=経験中	0.0249 (.0212)	0.0189 (.0123)	0.0122 (.0151)	0.0056 (.0132)	0.0177 (.0692)	0.0246 (.0381)	0.0051 (.0104)	0.0437 (.0396)	
親族介護(週7h超)=経験後	0.0604 ** (.0280)	-0.0025 (.0116)	0.0051 (.0140)	0.0144 (.0127)	0.1415 (.0913)	0.0797 ** (.0374)	-0.0009 (.0092)	0.1088 *** (.0386)	
消費モデル									
本人_推計賃金率	0.0089 (.0127)	-0.0208 (.0146)	0.0021 (.0076)	-0.0127 (.0158)	-0.0015 (.0412)	-0.0850 * (.0467)	0.0020 (.0051)	-0.0526 ** (.0210)	
配偶_年金収入	-0.0002 (.0011)	0.0006 (.0004)	0.0001 (.0009)	0.0004 (.0004)	-0.0011 (.0037)	0.0036 *** (.0012)	0.0005 (.0006)	0.0020 (.0025)	
配偶_年金外収入	0.0000 (.0002)	0.0002 (.0001)	-0.0000 (.0002)	0.0000 (.0001)	0.0006 (.0007)	0.0008 * (.0004)	-0.0000 (.0001)	0.0011 ** (.0004)	
本人_年金収入	-0.0004 (.0005)	0.0010 (.0008)	0.0010 ** (.0005)	0.0007 (.0008)	-0.0025 (.0018)	0.0031 (.0024)	0.0005 (.0003)	-0.0003 (.0013)	
世帯_金融純資産	0.0004 (.0004)	-0.0003 (.0002)	-0.0002 (.0002)	0.0001 (.0002)	-0.0023 * (.0012)	0.0005 (.0007)	0.0002 (.0001)	0.0005 (.0006)	
人的資本投資									
年齢=61歳	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	
年齢=62歳	0.0175 * (.0092)	-0.0014 (.0077)	0.0097 (.0081)	-0.0076 (.0081)	-0.0185 (.0298)	0.0320 (.0234)	0.0072 (.0058)	-0.0294 (.0208)	
年齢=63歳	0.0305 * (.0168)	0.0123 (.0120)	0.0160 (.0115)	-0.0180 (.0129)	-0.0411 (.0546)	0.0281 (.0374)	0.0086 (.0079)	-0.0571 * (.0308)	
年齢=64歳	0.0413 (.0265)	0.0173 (.0173)	0.0064 (.0166)	-0.0196 (.0187)	-0.0523 (.0861)	0.0405 (.0547)	0.0082 (.0111)	-0.0700 (.0454)	
人的資本活用									
学歴=中学	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	
学歴=高校	0.0000	0.0050 (.0085)	0.0066 (.0088)	0.0188 ** (.0094)	0.0000	0.0036 (.0278)	0.0024 (.0057)	0.0380 (.0251)	
学歴=高専短大	0.0000	0.0043 (.0110)	0.0134 (.0155)	0.0313 *** (.0121)	0.0000	0.0137 (.0359)	0.0067 (.0100)	0.0856 * (.0440)	
学歴=大学(院)	0.0000	0.0300 * (.0175)	0.0140 (.0115)	0.0194 (.0194)	0.0000	-0.0077 (.0577)	0.0023 (.0074)	0.0514 (.0326)	
学歴=その他	0.0000	0.0292 (.0399)	-0.0002 (.0307)	0.0002 (.0437)	0.0000	0.1388 (.1290)	-0.0085 (.0198)	0.0088 (.0878)	

職歴=同じ会社20年以上	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
職歴=同じ分野20年以上	0.0000	-0.0099 (.0110)	-0.0200 ** (.0086)	-0.0279 ** (.0121)	0.0000	-0.0316 (.0359)	0.0003 (.0056)	-0.0158 (.0246)
職歴=自営以外20年以上	0.0000	-0.0141 (.0112)	-0.0032 (.0129)	-0.0269 ** (.0124)	0.0000	-0.0050 (.0367)	-0.0042 (.0083)	-0.0358 (.0368)
職歴=自営業で20年以上	0.0000	-0.0088 (.0116)	0.0011 (.0102)	-0.0033 (.0128)	0.0000	0.0509 (.0380)	0.0031 (.0066)	0.0471 (.0288)
職歴=中断以後は不就業	0.0000	-0.0063 (.0235)	-0.0275 (.0771)	-0.0220 (.0259)	0.0000	-0.0456 (.0766)	-0.0123 (.0486)	-0.2465 (.2239)
職歴=その他の就業経歴	0.0000	-0.0180 (.0111)	-0.0103 (.0197)	-0.0107 (.0122)	0.0000	0.0034 (.0363)	-0.0100 (.0126)	-0.1025 * (.0565)
職歴=収入伴う就労歴無	0.0000	-0.0345 (.0388)	-0.0256 (.1411)	-0.0324 (.0428)	0.0000	0.0045 (.1269)	-0.0153 (.0911)	-0.3241 (.4026)
個人属性								
主観的健康=中央値より悪	0.0037 (.0085)	-0.0130 (.0084)	-0.0134 * (.0078)	-0.0133 (.0090)	-0.0056 (.0277)	-0.0306 (.0263)	-0.0027 (.0054)	-0.0269 (.0204)
主観的健康=中央値と同じ	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
主観的健康=中央値より良	0.0049 (.0063)	0.0113 * (.0063)	0.0084 (.0060)	0.0082 (.0068)	0.0410 ** (.0204)	0.0247 (.0196)	0.0042 (.0042)	0.0222 (.0157)
定年退職=経験なし	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
定年退職=経験済	-0.0068 (.0176)	-0.0305 *** (.0099)	-0.0077 (.0081)	0.0053 (.0109)	0.0122 (.0573)	0.0170 (.0324)	-0.0021 (.0053)	0.0631 *** (.0225)
家族属性								
16歳未満の同居の子=0名	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
16歳未満の同居の子=1名	0.0456 (.0530)	-0.0139 (.1102)	0.0108 (.0371)	0.4834 *** (.1175)	0.0148 (.1728)	-0.0462 (.3407)	-0.0054 (.0248)	-0.0466 (.1005)
16歳未満の同居の子=複数	0.3008 *** (.0959)	0.0000	-0.0215 (.0651)	0.0000	-0.1635 (.3120)	0.0000	0.1160 *** (.0436)	-0.3062 * (.1767)
16歳以上無収入同居者=0名	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
16歳以上無収入同居者=1名	0.0029 (.0105)	0.0065 (.0104)	0.0029 (.0088)	0.0054 (.0112)	0.0120 (.0339)	-0.0393 (.0326)	-0.0011 (.0060)	0.0289 (.0234)
16歳以上無収入同居者=複数	-0.0404 (.0314)	-0.0095 (.0371)	-0.0274 (.0290)	0.0743 * (.0392)	0.0980 (.0992)	0.0915 (.1132)	0.0018 (.0200)	0.0556 (.0745)
地域属性								
有効求人倍率	0.0200 (.0161)	0.0066 (.0125)	-0.0010 (.0126)	-0.0094 (.0134)	-0.0454 (.0522)	0.0056 (.0390)	-0.0030 (.0088)	-0.0696 ** (.0331)
調査属性								
調査年=2010	-0.0016 (.0113)	0.0051 (.0103)	0.0193 ** (.0087)	0.0225 ** (.0110)	0.1201 *** (.0366)	0.1069 *** (.0316)	0.0060 (.0061)	0.1132 *** (.0228)
定数項	-0.0383 (.0265)	0.0259 (.0202)	0.0032 (.0186)	0.0308 (.0219)	0.3394 *** (.0862)	0.2460 *** (.0646)	-0.0045 (.0125)	0.3563 *** (.0506)
sigma_u	0.0939	0.0804	0.1048	0.0938	0.4152	0.2893	0.0551	0.3298
sigma_e	0.0976	0.1232	0.1325	0.1248	0.3179	0.3562	0.0976	0.3179
rho	0.4811	0.2986	0.3848	0.3611	0.6304	0.3974	0.2415	0.5183
N	3885	2701	3887	2701	3899	2704	3885	3899